

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 伊東国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

伊東市及び その周辺に在住するに日本語を母語としない住民を対象とし、日本語の速やかな取得を図るとともに、その生活を支援する

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月6日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武茂 堀越卓子 曾我広子	日本語教室開設 受講者募集 講師登録	文化庁委託事業採択 開催期間の再確認 講師確認(月1回ミーティング) 受講者拡大PR
8月5日	喫茶 わかば	水口進吾 鈴木健支 大武茂 堀越卓子 曾我広子 講師参加	検定指導要綱目標協議 指導内容検討 講師生徒の参加 講師ミーティング報告 オブザーバー	講師組み合わせ検討 生徒課外実践検討 上期教室内容報告
10月7日	喫茶 わかば	水口進吾 鈴木健支 大武茂 堀越卓子 曾我広子 講師参加	上期教室内容報告 日本語検定 講師ミーティング報告 オブザーバー	生徒指導の問題点 指導目標 下期受講者拡大PR
1月13日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武茂 堀越卓子 曾我広子	日本語教室事業経過 下期教室内容検討	生徒出席報告 講師の参加状況 交流フェスタ日本語スピーチ選考 講師ミーティング報告

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 伊東国際交流協会「日本語教室」
- ② 開催場所 伊東市松川町太田ビル 会議室
- ③ 学習目標 初級、中級、上級と生徒の能力に応じて指導、
原則的にマンツーマン方式にての授業、日本語の基本的
文法を学習しながら日常会話程度のコミュニケーション
能力の習得、さらに上級を目指すものに日本語能力検
定試験の受験、合格を目指した。
- ④ 使用した教材・リソース
みんなの日本語 初級 I II
中級から始める日本語
上級から始める日本語
漢字マスター 3級漢字500 2級漢字1000
1級漢字2000
日本語能力試験 対策項目整理 1級 2級 3級
- ⑤ 受講者の募集方法
地元ケーブルテレビ コミュニティーFM 新聞CM 協会会報 ちらし等



⑥ 受講者の総数 81名 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
 イギリス1 イラン1 インドネシア2 韓国4 タイ10 台湾3 中国 31 ドイツ2
 トルコ1 フィリピン16 フランス6 ミャンマー1 メキシコ1 ルーマニア2

⑦ 開催時間数(回数) 196.5時間 (全 131 回)
 月曜教室 41回 水曜教室・午前 45回 水曜教室・午後45回

⑧ 日本語教室の具体的内容 **(伊東国際交流協会 日本語教室日報を添付します)**

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



① 左記の写真は新しく教室に来られた学習者を先生がインタビューしているところです。インタビューは来会者の日本語能力や日本語学習の目的、日本における住居環境などを聞き今後のシラバスの作成、効果的な授業を行うために重要な項目となっています。



②この写真はマンツーマンで行う授業をピックアップしたものです。この日は先生の数が若干少なく1人の先生が二人の生徒を受け持っています。マンツーマンの授業は先生が生徒の実力に応じて生徒の個人的な要求に的確に、且つ直接伝える事ができると言う利点を持っています。



③左の写真は典型的な教室授業風景です。この日も一人の先生が複数の生徒を受け持っているのが見られます。生徒の内訳としては写真の通り中国の研修生、外国人配偶者などが多いいです。授業はテキスト、ホワイトボード、その他副教材として初心者は絵カード、中級者は問題集、上級者は新聞、小説なども使います。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
ユリアナ ドロバンツ	ルーマニア語 (ルーマニア国)	10年	11回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

No.	氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
1	大沼美那子	主婦	日本語教師養成講座終了 日本語学校教師 8年	43	講師
2	石田 豊	定年退職者	日本語教師	11	講師
3	羽生田利雄	定年退職者	日本語教師	6	講師
4	村上 佳世	主婦	日本語教師元小学教師	28	講師
5	小西 恒男	定年退職者	日本語教師	29	講師
6	石田 寿子	主婦	日本語教師	25	講師
7	堀越 卓子	定年退職者	日本語教師元英語塾教師	66	講師
8	大武 茂	定年退職者	日本語教師養成講座終了 海外教師 3年日本語教師	70	講師
9	加藤 守康	定年退職者	元高校英語教師日本語教師	17	講師
10	天野 尚則	定年退職者	元高校国語教師日本語教師	46	講師
11	吉川 仲子	主婦	元 JAC 日本語教師	29	講師
12	曾我 広子	定年退職者 元中学英語教師	静岡県国際交流協会日本語講座 研修終了日本語教師	79	講師
13	ユリアナ	ルーマニア語	日本語教師	12	講師
14	安田加代子	主婦	伊東国際交流協会日本語講座 研修終了 日本語教師	7	講師
15	川野 隆子	主婦	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	35	講師
16	吉居 富子	主婦	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	37	講師
17	福岡 悟子	主婦	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	59	講師
18	石田由美子	主婦	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	33	講師
19	鈴木 健一	定年退職者	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	31	講師
20	大内チエミ	主婦	伊東国際交流協会日本語 講座研修終了 日本語教師	2	講師

4 事業に対する評価について

1 当初の学習目標の達成状況

- ① 受講者数： 81名
年間延べ受講者数： 726名
- ② 開催教室回数： 131回
延べ時間教室時間数： 196, 5H
- ③ 教師数、年間延べ教師数
教師数 20名
延べ出席数 665名
- ④ 日本語能力検定試験資格取得 計11名
1級受験 3名の内 1名合格
2級受験 10名の内 9名合格
3級受験 1名の内 1名合格

2 学習者の取得状況

- ① レベル別受講者数（受講者数： 81名）
初級者 39名
中級者 28名
上級者 14名

3 日本語教室設置運営の効果、成果

- ① 初級クラス：初級クラスにおいてはまずひらがな、カタカナの習得が第一となるが本年はかなの習得から始める生徒が多かった。この生徒たちには50音表と絵カードあるいはかな練習帳を併用しながら進めるのが普通である。かなの習得には個人の能力によって一概には言えないが1～3ヶ月ぐらいで終わらせその後「みんなの日本語」初級へと入って行く。かな学習者の中には長く日本に住んでいて日常会話はできるけれど、字が読めない、書けないという者もいる。こういう人たちは50音表、ひらがな練習帳だけでは飽きてしまって学習意欲を半減させてしまう者もいる。こういう人たちでパソコンができる人に対してパソコンに文章を打ち込みながらひらがなを覚えさせるというのも本年初めて取り組んだ方法であった。この方法だと文章を作りながら、ひらがなは簡単な漢字までパソコン画面で自分で学習することができかなり効果的な方法ではないかとその効果を現在検証中である。

能力試験の実績としては3級受験者1名の合格者を出せた。

- ② 中級クラス：中級クラスはやはり「中級から始める日本語」のテキストがメインになるが、教材としても逐次新しい教材をそろえながらより効果的に、より広く日本語だ

けでなく日本文化にまで範囲を広げよりその学習効果を上げようと図っている。特に教材として揃えたものとして日本語の慣用表現に関するもの、日本人が普段使っている日本語を分かり易く説明した解説書等である。

能力試験の実績としては2級受験者10名のうち9名の合格者を出せた。

- ③上級クラス：上級クラスの生徒は研修生を含め現在日本に永住的に住んでいる学習者で、さらに日本語の能力を高めようとして、学んでいる生徒である。一応目標は一級取得であるので、1級の試験問題を中心にしながら、新聞あるいは雑誌、書籍等を副教材としながら時事問題、社会情勢などを話材に進めている。

能力試験の実績としては1級受験者3名のうち1名の合格者を得た。

4. 地域の関係者との連携による効果、成果等

- 1) 伊東日本語教室は伊東国際交流協会の下部組織としてその活動を行っているので、上部組織である交流協会の活動、催し物には積極的に協力、参加している。

①伊東温泉按摩祭：例年伊東市内パレードを中心に教室関係者の参加を得ていたが本年はパレードの規模縮小に伴い参加者も多くは得られず5名ほどであった。

②伊東東温泉花笠踊り：伊東市内の各団体がチームを組みチーム毎に参加するものであるが生憎の雨模様の為「伊東国際交流協会」として生徒10名、会員5名の参加となった。

③ 学校現場における国際理解授業：市内学校の生徒に対して国際交流の意義等について理解してもらうために伊東在住の外国人と生徒たちの交流を実際に行うもので毎年行っているが、本年は外国人としてインドネシアのチャハディーさんに伊東市内の宇佐美学園に訪問していただき、生徒たちにインドネシアの地理、文化等について紹介してもらった。伊東には東南アジアの外国人が少なくないがさらに隣人としての東南アジア文化の紹介を図って行くようにしたい。

④国際交流協会意見交換会、ボランティアセミナー：伊東国際交流協会では毎年静岡県内の他都市の国際交流団体との交流を図りながら国際交流活動に対する問題の共有化、協力を図って来ているが、本年は富士宮市国際交流協会との意見交換会を設けその活動を確認し親睦をはかった。

また毎年新年に静岡県・日本語ボランティアセミナーが静岡市で行われるがこれにも例年通り日本語教室の先生が何人か参加した。

④ 課外授業：例年日本語教室の生徒たちと先生たちとの交流、親睦を図るために教室以外で課が時授業を実施した、伊東市の団体が所有するバスをお借りして伊東市郊外で野外授業を行った。観光施設。名所を訪れて教室を離れた実地の日本語の勉強と親睦が図れた。

⑤ 国際交流フェスタ：本年は2月27日（日）に場所は例年通り伊東市役所1階ロビーにて開催された。各国紹介ブースでは今年は新しくインドネシア、カナダの

ブースも開かれた。毎年外国人スピーチとして日本語教室の生徒によるスピーチが行われるが今年は地元在住のインドネシア及びフィリピンの教室生徒のスピーチが披露された。また本年から新しい試みとして日本語教室紹介ブースも開かれ、生徒募集とボランティア教師の募集を行い市民への日本語教室の周知、宣伝を行った。また日本人に対する日本語への啓蒙活動として漢字クロスワード、日本語の正しい理解を深めるための日本語能力診断テスト等にも参加してもらい日本語に対する興味の喚起を行った。

2) さらに日本語教室ではボランティアの先生方への地域日本語教育の必要性、その役割の重要性を知り、その教育スキルを向上させるために地域の日本語教育の啓蒙事業へも積極的に参加しているが本年は下記事業へ参加した。

①東部日本語ボランティアの会主催「子どもたちのための日本語学習支援研修会」

これは2010年9月から12月まで全6回開かれ本教室から3名参加した。

②静岡日本語教育センター主催「地域で育てる日本語教育を考えよう」

これは2011年1月に静岡市で行われたもので本教室から2名が参加した。

5. 改善点、今後の課題について

A 現状の課題とその対策

①生徒数の確保・維持：伊東市における日本語学習者をその身分の上から分類してみると一番多いのは伊東のホテル・旅館等にきて実習研修を受けている中国旅行サービス学校の生徒たちである。またホテル、旅館に来ている実習研修生はこの中国人学生だけではなく韓国の大学における日本語学科の学生あるいは観光学科の学生などがいる。しかし近年観光産業の人気の低下によりホテル、旅館ではこの学生たちを研修生として採用しなくなってきており、その数は年々少なくなっている。その上にこの実習生たちの勤務時間と日本語教室の開講時間がなかなか合わず日本語を学習したくとも出席できないという事も教室の生徒数を減らしている要因になっている。これらの問題についてはホテル人事側の責任者とも十分に調整を図りながら少ない研修生を如何に教室の学習者として引き付けるか活動して行きたい。

次に多い生徒として日本人と結婚した外国人がいる。この生徒たちの男女比率は圧倒的に女性の方が多くその学習理由も略共通している。日本在住が比較的浅い人たちは早く日本の生活になじむ為とその語学力を向上させるという主に会話中心の学習になり、会話が略問題なくできるようになって来るとその次の段階の日本語能力の向上を目指すことになる。こういう人たちは比較的学習意欲も強く又それを妨げる事情もそれほどないので教室に長く止めておくことは容易である。課題としてはその学習者にいかに効率よく又楽しんで学習していけるかを心掛けて授業をしていきたい。

②ボランティア教師の能力向上：伊東日本語教室ではその教師をボランティアの方々

に頼っているが、この方々は決して日本語教育についての専門家ではない。日本語

を効率的に正しく教えるというよりか、むしろ日本語教育から少し離れた日本における生活上の問題等のお手伝いをする方が得意という方のほうが多い。これもおろそかにはできない問題であるが、やはり日本語教室の先生というからには日本語を教える事が第1でなければならない。そのために教室では先生の為の教え方の手引という形でテキストを作り、講習会を開いてきたが、この活動をさらに続け、年に2回ぐらいを目標として勉強会を開いて行きたい。テキストとして既に「みんなの日本語」のカリキュラムにそってその文法事項、語彙、教え方のポイントについて第1課から第25課までは作成してあるのでさらに第26課から第50課までを引き続いて作成し完成させたい。

C) 今後の活動予定、展望

- ①教室内活動の充実：昨年来時間数の拡張、先生、生徒のマンツーマン方式の強化等を行ってきた。時間の拡張として月曜日半日を増やしてきたがこの時間の生徒の出席数も増えてきておりこの効果は十分に上がりつつある。またマンツーマン方式もほぼ固定化しこの方式による生徒と先生の繋がりは強くなったと思われる。ただ逆に他の先生との交流が少なくなる傾向も懸念されるのでこの組み合わせを定期的に変える事が今後の課題として考えていきたい。
- ②教室外活動の充実：教室外活動として昨年はバスハイク等を行ったが参加者も多く交流の効果は得られたように思われる。昨年は外の活動としてはこのバスハイク一件だけであったが、今後さらに件数を増やし季節ごとの親睦及び文化交流にも効果のある教室外活動を増やして生徒、先生の信頼、友好を深めるように充実を図りたい。

③その他参考資料 **活動風景** (受講生に対してアンケート等があれば添付してください。)
※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。



FM 伊東なぎさステーション教室開催案内放送



伊東国際交フェスタ 日本語スピーチ



教室を離れた日本語研修(野外授業)



授業風景



地域イベントに参加(国際交流フェスタ)



月曜教室の生徒と先生



教室風景



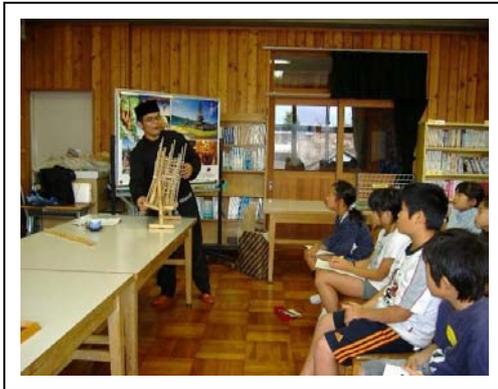
花笠踊り参加



教室風景



教室風景



国際理解授業に教室生徒が自国の紹介



教室生徒誕生パーティ